

各学校では、「目標達成に向けた組織的な授業改善」推進手引き（平成27年3月）を踏まえた組織的な授業改善が進んできました。全教員が児童生徒の状況や「授業改善の5点セット」を共通理解し、PDCAサイクルを学校全体と個々の教員で確実に回すことにより、一層の充実を図りましょう。

PLAN

学校の教育目標・重点目標との連動

- ・現状把握・問題点の明確化
- ・授業改善テーマの設定
- ・授業改善の重点・取組内容の設定
- ・取組指標の設定
- ・検証指標の設定
- ・授業改善計画（校内研究計画）の立案
- ・授業改善を推進する組織づくり

5点セット



ベクトルを合わせて協働と切磋琢磨

DO

取組内容・取組指標に基づく実践

- ・児童生徒による授業評価
- ・研究授業・研究協議・互見授業
- ・管理職等の授業観察
- ・学年部会・教科部会

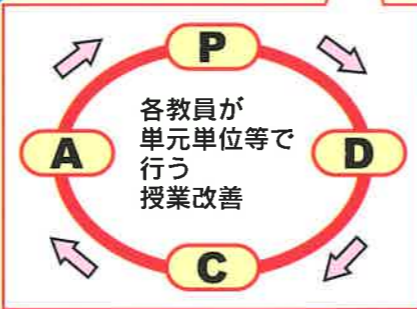
学校評価との連動

教員評価システムとの連動

CHECK

取組指標・検証指標に基づく評価

- ・各教員の取組状況の把握
- ・児童生徒の変容の把握
- ・単元末テスト・各種学力調査
- ・学校評価・児童生徒による授業評価
- ・目標管理シート



ACTION

成果と課題の分析

- ・改善方針・計画の立案
- ・組織の役割の見直し
- ・指導体制の見直し
- ・学力向上プランへの反映
- ・教育課程の改善

【組織的な授業改善のポイント】取組内容・取組指標に基づく共通実践による一人一人の授業力向上

- 授業改善5点セットの【取組内容】【取組指標】は、個々の教員が「どのような授業改善の取組を行うのか」を明確にしたもので、これに基づき個々の教員が授業改善を進めることは、学校全体の授業改善のPDCAサイクルではDOに当たります。
- 個々の教員が学校全体の改善の方向性を理解し、【取組内容】【取組指標】に基づいて、図中赤色の小さいPDCAサイクルを短期に回すことが、まず重要なことです。その上で、それぞれの取組から得られた成果や課題、困り等について学年部会や教科部会等で情報交換等を行いながら、問題の解決や【取組内容】の質を向上させることが、学校全体の授業改善の充実につながります。



…… このパンフレットについての問合せ先 ……

大分市府内町3丁目10番1号

大分県教育庁 義務教育課

TEL:097-506-5534 FAX:097-506-1795

新大分スタンダードのすすめ

「新大分スタンダード」で主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業を目指して

1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- * 学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- * 学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- * 追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

* 思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- * 「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- * 「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる「学びに向かう学習集団」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を創造する学習展開

- * 各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現・交流→振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
- ・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
- ・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

「新大分スタンダード」による授業改善は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点による授業改善と重なります。

- 主体的・対話的で深い学びについて、中央教育審議会答申(H28.12)には、「単元や題材のまとまりの中で、例えば主体的に学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために、子供が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で実現されていくことが求められる」とあります。「新大分スタンダード」においても、単元や題材等を問題解決的な展開にするよう改善を求めています。

「新大分スタンダード」で目指す授業

- (1) 単元や題材の「ねらい」に即した「めあて」の設定では、児童生徒自身が学習の見通しをもち、意欲を高めることを重視しています。
- (2) 「めあて」に即した「振り返り」を設定することで、本時の学びの成果等を実感し、学んだこと等を次の学びにつなげるようになることを重視しています。
- (3) 主体的・対話的で深い学びを創造する学習展開では、知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造などを実現することを重視しています。

平成31年3月(第3版)

大分県教育委員会

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。
- (H28.12.21 中央教育審議会答申から)

『「目標達成に向けた組織的な授業改善」推進手引き』の考え方を活用し、「新大分スタンダード」の視点からの授業改善をPDCAサイクルにのせて組織的に進めましょう。

【授業づくりのポイント1】「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定と板書の構造化

- 【めあて】** 付けたい力を身に付けさせるための、本時で目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」。単元や題材の「めあて」を提示することもある。
- 【課題】** その時間に解決すべき事柄。「なぜ～なのか」「～することはできるだろうか」「どうしたら～できるか」など、疑問形で示すことが多い。
- 【まとめ】** 本時の課題に対する答え・結論に当たる。
- 【振り返り】** めあてに対する振り返り。学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等が次につなげられるよう視点を設定することが望ましい。
- * 「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つが毎時間の授業で必要だというわけではありません。提示の順序やタイミングも授業によって変化します。本時のねらい等に応じ、児童生徒の思考の流れがすっきりとなるよう設定することが重要です。
- * 板書については、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」等を位置付けるとともに、ノートと一体化させ、何をどのように学んでいるか等を、児童生徒が常に振り返ることができるように心がけましょう。

【授業づくりのポイント2】習熟の程度に応じた指導の第一歩は評価規準の具体化

- 単元や題材の評価規準
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(国立教育政策研究所)を参考に作成します。(2020年度以降、新しい参考資料が示されます。)※ <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>
- 本時の評価規準
・単元や題材の評価規準、評価計画に基づき、本時の教材・学習活動から、指導者が「おおむね満足できる状況」を設定します。
・その際、「Bおおむね満足できる状況」と「C努力を要する状況」との区別ができるところまで具体化して設定することが重要です。
- 本時の中で評価し、本時の中で「C努力を要する状況」の児童生徒に手立てを講じ、全ての児童生徒を「Bおおむね満足できる状況」まで到達させることを目指します。
・個に応じた指導の工夫、特別な配慮を必要とする児童生徒への指導の工夫を検討します。



【授業づくりのポイント3】問題解決的な展開の授業の類型を意識した指導計画を

- 教科等の特質や教材によって、単元や題材の展開全体が問題解決的になる場合と、1単位時間などのまとまりで問題解決的な展開になる場合があります。
- 問題解決的な展開には、どのような段階があるのでしょうか。

教育学的授業類型
1 教師主導の講義・実習・習熟型授業
2 教師主導の課題解決学習 (学習課題・追究方法とも教師が)
3 児童生徒主体の課題解決学習 (学習課題は教師・追究方法は児童生徒が)
4 問題解決学習 (学習問題・追究方法とも児童生徒が)

類型は、藤村裕一氏(鳴門教育大学大学院)による



生徒指導の3機能 **自己決定** **自己存在感** **共感的な人間関係**

- ・「新大分スタンダード」で求めている生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業は、左の類型で言えば2～4です。ただし、類型2のみでは、問題発見能力や問題解決能力等は育成できません。単元や題材のまとまりを見通し、習得・活用・探究という学びの過程の中で、意図的・計画的に類型1～4を適切に選択し、設定することが必要です。
- ・類型1の授業においても、講義一辺倒でなく、児童生徒の主体性を引き出し、協働的な学習活動を設定するなどの工夫が求められます。
- ・単元や題材のまとまりを見通し、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかなどを考え、教科等の特質を踏まえ習得すべき事柄を明確にし、それらの確実な習得を図ることができるよう構想しましょう。

【授業づくりのポイント4】すっきり筋の通った指導案で授業の質を上げる

指導案を書いたら、次の視点で点検したり、同僚に意見を求めたりしましょう。

(1) 単元(題材)の指導計画

- 付けたい力は明確か。
各教科等の特質を踏まえた単元(題材)の目標、評価規準や評価場面は適切か。
- 学習展開(プロセス)は適切か。
設定した課題を、設定した展開(学習活動)で解決(追究・探究)していけば、付けたい力が育成できるように単元(題材)が設計されているか。
- 教材や言語活動の解釈は適切か。
「付けたい力」と「教材」、「課題」、「単元(題材)の中心となる学習活動(言語活動)」は連動しているか。 ※音楽、図画工作、美術、家庭、技術・家庭等では、「題材」として計画します。
※道徳科では、「主題」として計画します。
- 個に応じた指導の工夫、特別な配慮を必要とする児童生徒への指導の工夫は適切か。

(2) 本時案

- 本時の「ねらい」は適切かつ明確か。
- 本時の評価規準は、「ねらい」と対応しているか。それを使って実際に評価ができるか。
- 本時の「ねらい」に則した「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」が適切に設定されているか。

【ねらいの書き方の例】

- * A 学習内容(～を、～について)
B 学習活動(○○を通して、○○でまとめて、○○と比べて)
C 育成を目指す資質・能力(△△できるようにする、△△に気付くようにする、△△を高める等)
- * A～Cの3つの要素を入れる。
- * Bにおいては、「順序付ける、比較する、分類する、関連付ける、多面的に見る・多角的に見る、理由付ける、見通す、具体化する、抽象化する、構造化する」等の「考えるための技法」を意識する。